

# 地域を支える図書館 ～地域資料「ぶどうとワイン」で繋いでいく現在と未来～

山梨県 甲州市立勝沼図書館

## 基本データ

所在地	山梨県甲州市勝沼町 下岩崎 1034-1
職員数	14人
うち司書数	12人
蔵書数	約130,000冊
利用登録者数	約35,000人
年間貸出冊数	約97,000冊 (児童用図書貸出数 約30,000冊)

## テーマ・活動のねらい等

【テーマ】地域の課題解決、まちづくり

【活動のねらい】

- 地域産業としての「ぶどう」「ワイン」を収集することで、資料・歴史、また観光の面からも支える図書館になる。
- 図書館として専門資料の収集・保存・提供をおこなう。
- 次世代の子どもたちに魅力を伝え、将来的に地域を支える人材を育てる。
- 資料展を通して様々な角度から『地域再発見』をしてもらう。

## 取組・活動の概要

### (1) ぶどうとワインの資料展

- 毎年10、11月に『ぶどうとワインの資料展』を開催。
- 資料展は大きなテーマはそのままに、流行・時代のニーズなどから小テーマを決め、取材を行いながらまとめていく。
- 展示の仕方はパネル展示とし、『ぶどう・ワイン』の資料だけではなく、テーマに沿った関連資料も展示。



ぶどうとワインの資料展

- 館内「ぶどう・ワインコーナー」には一般流通資料はもちろんのこと、教本、セミナー資料、学会誌、専門雑誌なども配置。
- 独自資料として、「ぶどう 県内・県外」「ワイン 県内・県外」の4種の新聞クリッピング、市内の各ワイナリーファイルを設置。

- 「ぶどう・ワインコーナー」の独自分類を実施。

### (2) 連動企画

- 館内で資料・醸造家の話・味を知ってもらえるイベント『山梨の若手醸造家集団アサンブラージュと語る、産地ワインのタベ』を実施。



産地ワインのタベ

- 歴史資料を読み解く連続セミナーを開催。(『明治十年全十一年中 往復記録』)
- 各年テーマによって、講演会・ワークショップを開催。
- 貴重資料のデジタルデータを作成。ガラスケース内の貴重資料、文化財が所有する資料などを文化財課とデータ共有をしながら作成。
- 児童用資料として『甲州ワインのつくり方』、『勝沼昔話 ぶどうと大蛇の物語』『甲斐の徳本』など手作り紙芝居を作成。小学校への出張授業も行う。



手作り紙芝居

- ワインツーリズム開催時には、参加者向けの展示と案内を行う。

### 取組・活動の工夫や特徴

- 図書館スタッフが取材をし、まとめて作成する資料展。配布冊子も全て手作りをしている。
- 外に出ることによって、地元とも密接な繋がりが生まれた。
- 展示を行う際には、その世界観を大事にし、見てもらえる「美しさ」に重点を置きながら行う。

### 取組・活動の成果や今後の展望

- 広く広報を行ったことで、ここ数年『ぶどう・ワインの図書館』として周知されてきたように感じる。
- ただ専門図書館として、レファレンサーの育成が必要となっていく。
- 今後、地元の根を支えられる図書館としてさらに発展していきたい。

